

219-1953

日本組織培養学会  
平成7年12月29日

会員通信  
第87号

発行責任者  
※佐藤 靖史(東北大加齢研)  
三井 洋司(工技院生命研)  
※〒980-77 仙台市青葉区  
星陵町4-1  
電話 022-274-1111 内3469  
Fax 022-276-6243

## § 日本組織培養学会第69回大会開催案内

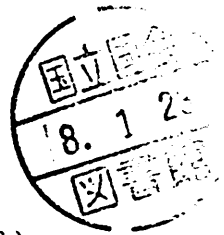
第69回日本組織培養学会を下記の要領で開催いたします。

### <大会の概要>

期 日 平成8年5月15日(水)～17日(金)

学会会場 広島厚生年金会館(広島市中区加古町3-3)  
(082)243-8881(代表)  
街の中心部にあり、平和公園へも徒歩7分くらいです(地図参照)

学会予定 5月15日 一般演題、シンポジウムⅠ  
5月16日 一般演題、総会、シンポジウムⅡ、懇親会  
5月17日 一般演題



### シンポジウムⅠ

「機能細胞の培養—最近の技術進歩と応用」  
オーガナイザー：三井洋司(工技院・生命研)

#### 破骨細胞の分離と遺伝子発現

久米川正好(明海大・歯)

#### ヒト骨髄長期培養における造血幹細胞の増殖と分化

大塚 輝久(九大・医)

#### ウシ肝細胞の継代培養とスフェロイド形成による機能回復

澤崎 嘉男(防衛医大・解剖)

#### マウス毛嚢組織の器官培養系の開発と毛成長抑制因子検索への応用

神谷 俊一(協和醗酵・東京研)

#### 心筋細胞の無血清培養と拍動制御因子

鈴木 崇彦(東大・医)

## シンポジウムⅡ

「ヒト細胞の老化と不死化—最近の進歩」

オーガナイザー：井出利憲（広島大・医）

ヒト細胞の不死化・癌化とテロメラーゼ

田原 栄俊（広島大・医）

テロメラーゼ発現制御遺伝子

押村 光雄（鳥取大・医）

上皮系幹細胞の増殖とテロメラーゼ

安本 茂（神奈川がんセ・分子腫瘍）

ポジショナルクローニング法によるウエルナー老化遺伝子の

探索

古市 泰宏（エイジーン研）

懇親会 5月16日午後6時より（会場から広島港までバス送迎します）。  
客船「銀河」による2時間半の瀬戸内ディナークルージング。飲みながら海から見る瀬戸の夕日とライトアップされた宮島の大鳥居が美しい。

### ◆参加申込（事前参加登録）法◆

平成8年4月12日まで事前参加登録を受け付けます。当日でも参加申し込みできますが、できれば事前振込にご協力ください。振込用紙は、会員通信に同封してあります。振込用紙1枚で5人まで登録できます。それ以上の場合は、振込用紙を大会事務局までご請求下さい。振込人が、ネームカード送付先になりますので正確にご記入下さい。ネームカードは、平成8年4月末日までに振込人宛にまとめて送付いたします。

### ◆発表申込方法◆

発表を希望する方は、本案内に綴じ込みの発表申込みに記入の上、下記の抄録送付法（A）、（B）、（C）のいずれかにより平成8年2月10日までに必要書類等をお送りください。抄録送付法（C）による場合は、平成8年1月25日までに原稿用紙の請求が必要となりますのでご注意ください。

発表申込・抄録締切：平成8年2月10日（消印有効）

### ◆抄録送付法◆

抄録は、（A）フロッピーによる方法、（B）E-mailによる方法、（C）所定の原稿用紙による完成原稿による方法のいずれかを選択できます。それぞれの注意事項に従って記入漏れ、郵送漏れがないよう注意して下さい。

（A）フロッピー郵送の場合：発表申込用紙、フロッピー、抄録コピー2枚、官製はがき（演題、発表者、自分宛の宛先を記入）を簡易書留で郵送。

フロッピー：抄録記入例を参考にして、A；発表者、B；所属、C；住所、D；電話番号、E；FAX番号、F；E-mailアドレス、G；発表タイトル、H；英文タイトル、I；日本文発表者・共著者（所属）、J；英文発表者・共著者、K；抄録原稿（1400字

以内（厳守）、半角英字は0.5字として換算）の順番にタイプしたテキストファイルを作製して下さい。ファイルは、Macintosh フォーマット（2DD、2HD）またはMS-DOSフォーマット（2HD（1.4MBフォーマット）、2DD（720Kフォーマット））された3.5インチ2HDにテキストファイルの形式でお送り下さい。98互換機の2HD（1.2MB）、2DD（640KB）フォーマットは受け付けておりませんので気をつけて下さい。フロッピーディスクには必ずラベルを貼り、発表者名、演題名、ファイル名、使用コンピューター、使用システム、フォーマット、使用ソフトを記載して下さい。なお、送付していただいたフロッピーはお返ししませんのでご了承下さい。

抄録コピー：A4用紙であれば書式は問いませんが、必ずA～Kまでの項目全てを印刷して下さい。テキストファイルでは、特殊記号や特殊なフォント、字体（上付き、ボールド、イタリック等）は分かりませんので、A4用紙に見本印刷の上特殊記号等はアンダーラインをお願いいたします。なるべく希望に添うようにいたしますが漢字のフォントは統一するため希望に添えない場合がありますが、ご了承下さい。

（B）E-mailの場合：E-mail送信とは別に、発表申込用紙、抄録コピー2枚、官製はがき（演題、発表者、自分宛の宛先を記入）を簡易書留で郵送。

E-mailは抄録記入例を参考にして、A；発表者、B；所属、C；住所、D；電話番号、E；FAX番号、F；E-mailアドレス、G；発表タイトル、H；英文タイトル、I；日本文発表者・共著者（所属）、J；英文発表者・共著者、K；抄録原稿（1400字以内（厳守）、半角英字0.5字として換算）の順にタイプし、ファイル名：96組織培養発表申込にてbaiyo@pharm.hiroshima-u.ac.jpまで送信して下さい。E-mail着信後、受取証明書をE-mailにて送付いたしますが、必ず抄録コピーと官製はがきは郵便でお送り下さい。抄録コピー：A4用紙であれば書式は問いませんが、必ずA～Kまでの項目全てを印刷して下さい。E-mailでは、特殊記号や特殊なフォント、字体（上付き、ボールド、イタリック等）は分かりませんので、A4用紙に見本印刷の上特殊記号等はアンダーラインをお願いいたします。なるべく希望に添うようにいたしますが漢字のフォントは統一するため希望に添えない場合がありますが、ご了承下さい。

（C）所定の原稿用紙による完成原稿による方法：図や表を抄録に盛り込む場合は（C）の方法により申し込んで下さい。図や表を入れない場合は、できるだけ（A）または（B）の方法によって申し込んで下さい。所定の原稿用紙は、平成8年1月25日までに はがき、FAX、E-mailにてご請求下さい。

◆抄録記入例◆

- A : 田原 栄俊  
B : 広島大学・医学部・総合薬学科・井出研究室  
C : 〒374 広島市南区霞 1-2-3  
D : 082-257-5293  
E : 082-257-5294  
F : toshi@pharm.hiroshima-u.ac.jp  
G : ヒト胎児線維芽細胞の老化、延命期に発現する遺伝子群の解析  
H : Analysis of Genes Expressed at Normal Senescence and Extended Lifespan Stages in Human Diploid Fetal Lung Fibroblasts  
I : 田原栄俊 1、原 英二 2、津山尚宏 1、金鎮京 1、佐藤恵美子 1、小田鈞一郎 3、井出利憲 1  
: 1 広島大・医・総合薬、東京理科大・2 応用生物、3 基礎工  
J : Hidetoshi TAHARA1、Eiji HARA2、Naohiro TSUYAMA1、Jin-Kyeong KIMI, Emiko SATO1、Kinichiro ODA3、Toshinon IDEI  
: Dept. Cell. Mol. Biol, Hiroshima Univ. Sch, Med., 2Dept. Appli. Biol.Sci., 3Dept. Biol.Sci and Technol. Sci. Univ. Tokyo  
K : 【目的】正常細胞には分裂寿命が存在し、分裂寿命による増殖停止状態を正常細胞の老化、又はM1期 (Mortality 1) よぶ。正常細胞に、SV40の大型○抗原を導入すると正常細胞の分裂寿命に比べ約20回の分裂寿命の延長が起こる。しかし、延命はしても不死化する頻度は極めて低く、細胞分裂の停止が起こる (M2期 (Mortality 2))。癌化の前段階である不死化能の獲得に至るまでの程度であるM1期、M2期を制御している遺伝子を明らかにすることを目的とし……………

<学会参加費>

- 会 員 5,000円  
 非会員 7,000円  
 学 生 3,000円

\*当日受け付けはそれぞれ1,000円高くなります。

<懇親会>

- 6,000円

<大会事務局および連絡先>

〒734 広島市南区霞 1-2-3

広島大学医学部総合薬学科井出研究室内

日本組織培養学会第69回大会事務局

Tel: 082-257-5290 井出

- 5291 阿武 (あんの)

- 5292 大塚

- 5293 田原

Fax: 082-257-5294

E-mail: baiyo@pharm.hiroshima-u.ac.jp (平成8年5月17日まで)

## 発表申し込み用紙

日本組織培養学会第69回大会（平成8年5月15～17日）

発表される方は、この発表申し込み用紙に必要事項をご記入の上、お送りください。  
なお、これは発表される方だけで結構です。共著者はこの申し込みは不要です。

.....  
発表登録票 事務局使用欄：受付番号 \_\_\_\_\_ 受付日時 \_\_\_\_\_

発表者氏名：

所属：

住所：

電話： \_\_\_\_\_ FAX： \_\_\_\_\_

E-mail： \_\_\_\_\_

以下必要に応じて□に印を付けてください。

抄録の送付方法：  (A) フロッピー  (B) E-mail  (C) 完成原稿

発表者・共著者が他に演題を出しているか：  だしている  だしていない

発表タイトル： \_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_

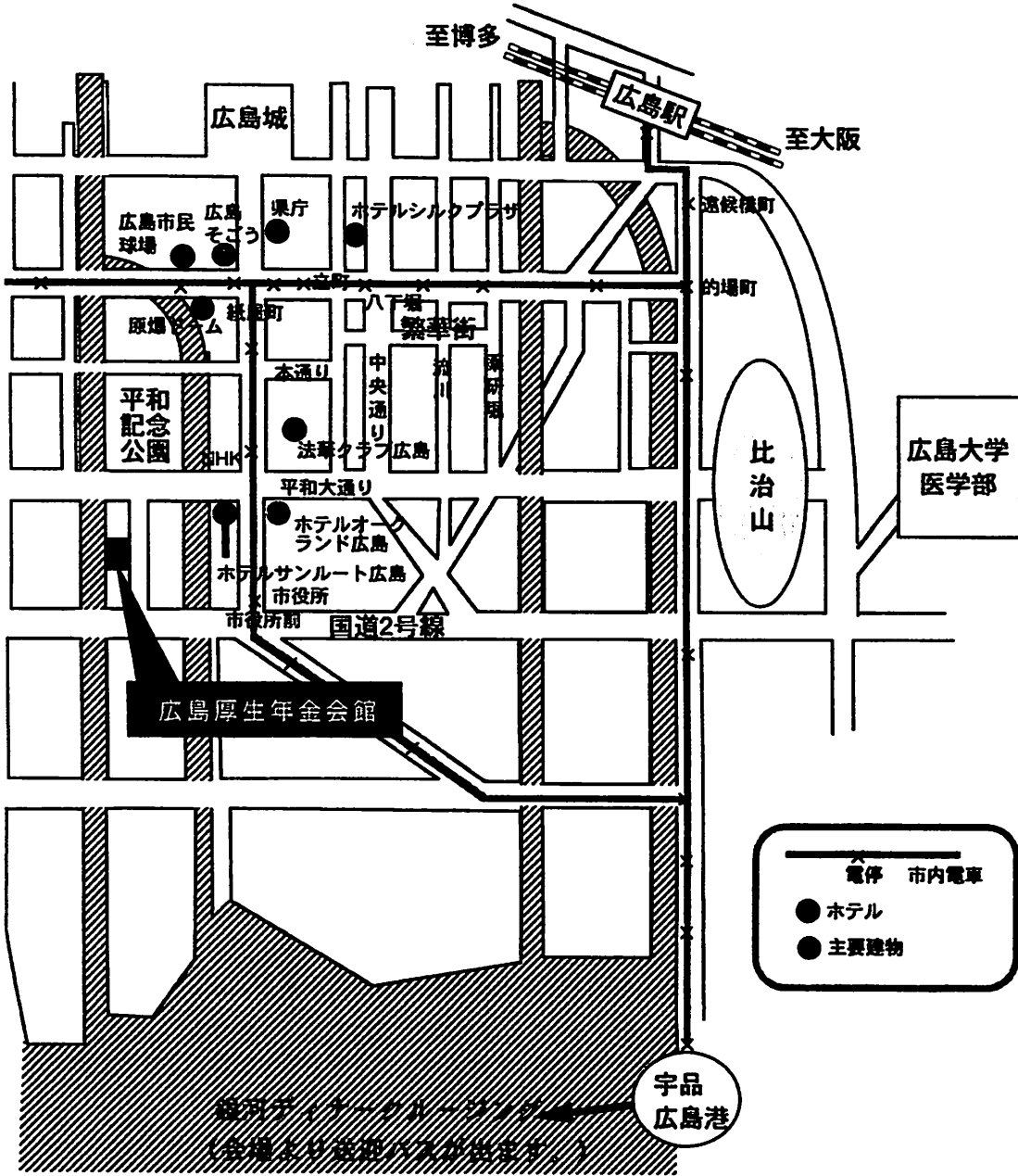
英文タイトル： \_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_

発表者・共著者（所属）： \_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_

英文発表者（所属）： \_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_

（タイトルと発表者・共著者はプログラム編成に利用しますのでワープロ印刷により正確をお願いいたします。）

# 会場・ホテルの案内図



## 交通のご案内

- 市内バス：広島バス、吉島営業所行き（24番）で約20分  
厚生年金会館前下車 210円
- タクシー：広島駅から15分 約1000円
- 市内電車：宇品行き（1番）で市役所前下車、徒歩5分

## 宿 泊 の ご 案 内

- 宿 泊 日：平成8年5月14日（火）・5月15日（水）・5月16日（木）
- 宿 泊 料 金：お一人様1泊朝食付（税金・サービス料込）

ホ テ ル 名	部屋タイプ	申込番号	宿 泊 料 金
ホテルサンルート広島	シングル	A	¥9,800
ホテルオークランド広島	シングル	B-1	¥8,500
ホテルシルクプラザ	シングル	B-2	¥7,800
法華クラブ広島店	シングル	B-3	¥7,300
広島厚生年金会館	シングル	C	¥6,500

\*お申込みは先着順・希望別に受付いたしますが、ご希望に添えない場合も  
ございます。

## お申込み手続き及び精算方法のご案内

宿泊ご希望の方は、別紙申込書に必要事項を記入の上、FAX又は郵送にてお申込み  
下さい。

- 申込締切日：平成8年4月13日（土）
- 申込先／お問い合わせ先：〒730 広島市中区基町13-7 朝日ビル1階  
（株）日本旅行広島支店 担当：桐山／宮本  
 Tel (082) 227-1090  
 Fax (082) 228-7220
- クーポン券の送付・精算方法：締切後、宿泊券・請求書・振込用紙を送付させてい  
 いただきますので、5月2日（木）までにお振込下さい。
- 通信連絡費としてお一人様一律500円を加算させていただきますので、ご了承下  
 さい。
- 変更・取消について：変更及び取消は、FAX又はハカギにてお早めにご連絡下さ  
 い。（電話での変更・取消は、受付できませんのでご了承下さい）

\*（宿泊日基準） お申込み後の取消は、下記の通り取消料を申し受けます。

4月28日迄	4月29日以降～2日前迄	前日の取消	当日18時迄	当日18時以降
無 料	一人一泊 @ 1,000円	50%	80%	100%

## 【第69回 日本組織培養学会総会】宿泊申込書

フリガナ		お名前先		TEL( )
申込代表者 氏名		住所 (電話番号)		FAX( )

番号	フリガナ 氏名	性別	年齢	宿泊日			第2程 の別	宿程記	備考欄
				5/14(火)	5/15(水)	5/16(木)			
例	にちりょたろう 日 旅 太 郎	男	40	B-1	B-1	B-1	B-3	日 旅 太 郎	
1	-----								
2	-----								
3	-----								
4	-----								
5	-----								

※申込者が多数の場合は、コピーしてお使い下さい。  
 ※ツインの場合、同室者氏名を必ずご記入下さい。  
 ※宿泊券につきましては申込番号にて第2希望まで必ずご記入下さい。  
 ※《申込締切日は、4月13日(土)です。》

【申込書送付先】 〇〇日本旅行広島支店 広島市中区基町13-7 朝日ビル1階

TEL (082) 227-1090

FAX (082) 228-7220



## § 1995年度細胞工学シンポジウムの御案内

「細胞外マトリックス接着シグナル細胞機能の制御とその医療応用への展開」

恒例となりました日本組織培養学会・細胞工学シンポジウムとして、今年度は最近注目されている細胞接着分子の基礎とその医学的応用にフォーカスを当てることになりました。

近年、細胞外マトリックスを介した細胞接着シグナルとその伝達機構に関する研究が活発化しています。本シンポジウムの第一部では細胞外マトリックス接着シグナルによる細胞機能の制御を中心に、発表・討論することを予定しています。第二部では、人工臓器や臓器移柄等々の医療分野において接着分子に関する基礎的研究の成果がいかにか生かされているか最前線のトピックスを紹介し、討論いたします。

ふるってご参加ください。

日 時：1996年1月16日（火） 10時～17時

場 所：順天堂大学有山記念講堂（御茶の水駅より徒歩約5分）

東京都文京区本郷3-1-3

### 第1部 「細胞外マトリックス接着シグナルによる細胞機能の制御」

座長：妹尾春樹、畑 隆一郎

- 10:00-10:40 細胞外マトリックス接着シグナルによる遺伝子発現のフィードバック制御  
畑 隆一郎（東京医科歯科大学・難治疾患研究所）
- 10:40-11:00 細胞外マトリックス接着シグナルによる細胞の増殖と機能の可逆的制御  
妹尾 春樹（秋田大学・医・解剖）
- 11:00-11:40 細胞基質間接着・脱接着における細胞内シグナル  
佐邊 壽孝（京都大学・ウイルス研究所）
- 11:40-12:00 細胞接着における新しいシグナル伝達分子p130casの役割  
野島 美久（東京大学・医・第三内科）
- 12:00-12:20 討 論
- 12:20-13:20 昼 食
- 13:20-14:00 平滑筋細胞形質転換（分化・脱分化）における細胞外マトリックス接着シグナルの役割  
祖父江恵治（大阪大学・医・バイオメディカルセンター）

### 第2部 「接着分子」学から臓器工学への展開」

座長：松田武久、赤池敏宏

- 14:00-14:50 バイオミメティック糖質高分子の設計とバイオ人工肝臓及び肝指向性ドラッグ（遺伝子）-デリバリーへの応用  
赤池 敏宏（東京工業大学・生命理工）
- 14:50-15:00 休 憩

- 15:00-15:50 人工基底膜の設計とハイブリック人工血管の開発  
松田 武久 (国立循環器病センター研究所・生体工学)
- 15:50-16:40 臓器移植と接着分子 磯部 光章 (信州大学・医・第一内科)
- 16:40-17:00 総合討論
- 17:15-19:00 懇親会 (有山記念館食堂)

参加費	一 般	(会 員)
大学・官公庁	3, 0 0 0 円	(2, 0 0 0 円)
学 生	1, 0 0 0 円	
企 業	5, 0 0 0 円	(4, 0 0 0 円)
懇親会会費	5, 0 0 0 円	
主 催	日本組織培養学会・細胞工学委員会	

連絡先 東京工業大学・生命工学部・生命分子工学科 赤池研究室 (赤池、友尾、伊藤)  
〒226 横浜市緑区長津田町4259 (電話：045-924-5790 F A X：045-924-5815)

## § 日本組織培養学会1996年度秋季公開シンポジウム予告

- 日 時：未定 (1996年11月下旬～12月上旬を考えております。シンポジウムは1日の予定です。午前9時位から午後5時位まで、スペースがあればポスターも展示したいと思えます。)
- 場 所：未定 (横浜あるいは東京の交通の便の良いところを現在選定中です。近くで懇親会を行います。)
- 仮 題：発生・生殖工学の最近の進歩と話題  
－基礎から産業・医療への応用まで－
- 主 旨：組織培養を研究の対象、あるいは手段としている学会員の方々にとってぜひ押さえておきたい周辺の研究分野の一つとして発生・生殖を扱う細胞工学あるいは遺伝子工学の技術 (ここでは発生・生殖工学とまとめて呼ぶ) とその研究の展開があると思われまます。

この研究分野は遺伝子導入技術、染色体操作技術、細胞培養技術など多彩な技術を集大成して、近年急速に進展してきた学際的な研究領域です。いわゆるトランスジェニック技術と遺伝子ターゲティング技術の進歩は目覚ましく、疾患遺伝子のみならず、発生、免疫、癌の発見競争にこれらの技術が組み合され、Nature, Science, Cellなどの一流雑誌をいつも賑わしていることはご存じのことと思われまます。

第一線の若手研究者にこの分野の研究の最近の進歩をご講演願う予定です。乞うご期待！学会員の皆様、特に若い方々、学会のみならず、産業界の研究者方々、研究の明日の糧を探しに是非ご参集下さい。もちろん、学会員以外の方も大歓迎です。

世話人：日本たばこ・生命科学研 西 義介

## § 日本組織培養学会平成7年度第2回幹事会議事録

日 時：平成7年11月19日（日）17～20時

場 所：東京ガーデンパレスホテル（東京都）

出席者：蔵本博行（会長）、大野忠夫（細胞バンク委員会委員長）、小山秀機（細胞工  
学委員会委員長）、難波正義、渡辺 純、佐藤靖史、伊藤まり、植田政嗣

欠席者：沖垣 達、星 宏良、三井洋司、宮崎正博

### I. 報告事項

#### 1. 会長報告（蔵本博行会長）

- 1) 倫理シンポジウム「バイオテクノロジー資源としての組織培養」開催にあたり、特別例外処置として10万円の出費を行った。
- 2) 第10回秋季シンポジウムは平成7年11月20日（月）～22日（木）に東京ガーデンパレスホテルにおいて、国外より18名、国内より20名、計38名のシンポジストを招いて開催される。この中で国外からの招待者のうち3名が事情により欠席となった。
- 3) 第10回秋季シンポジウムにおける発表内容Proceedingは、Churchill Livingstone Japan より平成8年5月頃発行予定で、その中に日本組織培養（JTCA）の名称を明記する。

#### 2. 庶務事項（植田政嗣庶務幹事）

- 1) 会員入退会報告（平成7年6月～平成7年10月）  
新入会希望者：正会員3名、第10回秋季シンポジウムへの招聘者12名  
退会者：正会員12名、賛助会員2社
- 2) 日本工学会より会告掲載依頼があり、会員通信第86号に掲載した。
- 3) 日本工学会より学会開催協賛依頼があり、積極的に参与する旨伝達した。
- 4) 日本組織細胞化学会より会告掲載依頼があり、会員通信第86号に掲載した。
- 5) 名誉会員に就任された各先生は、その年度の4月1日にさかのぼって会費は免除されることを再確認し、既に会費を納入されていた先生には返納した。
- 6) 関西医大、大山昭夫名誉教授叙勲申請にあたり、組織培養学会に関連する大山先生の履歴、業績等を調査し、関西医大に資料を送付した。
- 7) 秋季大会での幹事会出席者の中で、遠方の方に新幹線料金を基本とする交通費を支給すべき旨、伊藤会計幹事に連絡し一任した。
- 8) 次期役員選挙に関して、会員通信70号に記載された規定に則り、平成7年度中に会員名簿作成、選挙管理委員の選出を行い、投票用紙の発送ならびに開票を行う。

#### 3. 会計報告（伊藤まり会計幹事）

- 1) 平成7年6月以降、各種団体より計50万円の寄付があった。
- 2) 平成7年度第2回幹事会出席者のうち、遠方の大野、難波、佐藤、植田各幹事に、銀行振込にて実費を支給する。

#### 4. 奨励賞選考報告（難波正義奨励賞選考幹事）

- 1) 平成8年度奨励賞に対して、岡山大学医学部第二外科の川島邦裕先生の応募（1件のみ）があった。

- 2) 日本組織培養学会奨励賞選考規定に基づき、会長および各幹事に申請論文の審査を依頼した。
5. 会員通信報告（佐藤靖史会員通信幹事）
  - 1) 会員通信第85、86号を予定通り発行した。
  - 2) 次号は平成8年1月に発行予定であり、現在準備をすすめている。
  - 3) 内容の充実を図る目的で、会員よりの寄稿を積極的にお願いする。
6. 各種委員会報告
  - 1) 編集委員会報告（星 宏良委員長）〔植田庶務幹事代理報告〕
    - ①平成7年度は、「組織培養研究」第14巻第1, 2, 3号を予定通り発行した。
    - ②平成8年度文部省研究成果公開促進費の申請準備をすすめている。
    - ③「組織培養研究」第14巻第4号（平成7年12月末発行予定）の編集作業は順調に進んでいる。
  - 2) 細胞バンク委員会報告（大野忠夫委員長）
    - ①平成6年度より第4次細胞バンク委員会を継続しており、細胞の品質管理や情報収集に、積極的にインターネットを活用しつつある。
    - ②平成8年度第5次細胞バンク委員会を設置する。
  - 3) 細胞工学委員会報告（小山秀機委員長）

平成7年度細胞工学シンポジウムは、平成8年1月16日に、順天堂大学有山記念講堂において、「細胞外マトリックス接着シグナルによる細胞機能の制御とその医療応用への展開」との主題の下に開催予定である。
  - 4) 研究教育システム委員会報告（沖垣 達委員長）〔大野委員長代理報告〕
    - ①「細胞培養の技術第3版」は予定通り発刊予定である。
    - ②動物細胞工学会との国際合同シンポジウムに日本組織培養学会も積極的に参加していきたい。

## II. 協議事項

1. 新入会者承認について  
新入会希望者15名の入会が承認された。
2. 平成8年度奨励賞選考について  
応募件数は1件のみであったが、内容を慎重に協議した結果、受賞に値するとの判断で、全会一致で川島邦裕先生の受賞が承認された。
3. 次期選挙管理委員の任命について  
大野忠夫、植田政嗣両庶務幹事が任命され、会員名簿作成および選挙の準備が委託された。
4. 倫理シンポジウム「バイオテクノロジー資源としての組織培養」開催への特別出費について  
全会一致で承認された。
5. 平成9年度第70回大会世話人について  
小山秀機先生（細胞工学委員長）が推薦され、全会一致で承認された。
6. 日本組織培養学会名称変更について  
各会員にアンケート調査し、十分に意見を聴取した上で、次期幹事会で名称変更のための小委員会を設置する方針が了承された。

## § 秋季シンポジウムを終えて

代表世話人 蔵本 博行

本年度の秋季シンポジウムは、

International Symposium on

“Sex Steroid Hormone Action in In Vitro Culture System”

と題して11月20～22日の日程で、東京湯島の私学共済会館（東京ガーデンパレス）で開催された。

私共の専門領域である子宮内膜癌のホルモン応答性に関する仕事から発展させて、広く性ホルモンに関するテーマを取り上げさせて頂いた。「性ホルモン」に関する研究分野は一見大変狭いように思えるが、これに関係する臓器や疾患は、広く固体の全域に及んでいる。性ホルモンに関する研究は、もともとin vivoの系で発展してきたいきさつがある。しかし、近年水性培養基を用いる培養系で、非水溶性の性ホルモンに関する仕事が大変多くなって来ており、殊にヒト細胞を用いる研究では不可欠の実験法であるとさえ感じられる。そこで、各臓器や疾患の領域を越えて、性ホルモンと培養研究を同じくする専門家が一堂に会し討議することは、本学会の責務と考えて、本シンポジウムを開催した次第である。

その、発表内容は、会員各位に送付させて頂いた、プログラム・抄録集の通りであるが、① General Topice, ② Endometrium, ③ Endometrial Carcinoma, ④ Myometrium, ⑤ Ovary, ⑥ Oviduot, ⑦ Placanta, ⑧ Breast Carcinoma, ⑨ Pituitary, ⑩ Male Genital Tract そして⑪ Boneに区分される。研究手法としては、生化学的、さらには遺伝子レベルや成長因子に関する仕事が特に目を引いた。

幸い、内外38名の専門家による斬新な講演と十分な討議のお陰で、大変実りの多い会であったと、好評を頂戴している。一演者30分の発表と討議の時間設定により培養学会らしいdiscussionの多い会であったとの言葉も頂戴した。

シンポジウムの発表内容は、来春には単行本として出版の予定にしており、シンポジウムに出席できなかった世界中の人達にも目をおして頂けるようにと考えております。

無事、国際シンポジウムを開催できましたのも、ひとえに会員各位の御協力の賜物と感謝申し上げます。

## § 日本組織培養学会奨励賞ご案内

本奨励賞は、昭和60年（1985年）9月、本学会共催のもとに仙台で開催されました第3回国際細胞培養会議(3rd International Cell Culture Congress)の世話をされました山根 續会員から、運営余剰金500万円を若手研究者の研究を奨励するために寄付いただいたものに基づいて設けられました。過去3年度内に筆頭者として日本組織培養学会大会で発表された方のうち、学術雑誌に発表された方（第一著者で受理中も可）で40歳未満（当該会計年度の4月1日現在）の日本組織培養学会に所属する若手研究者に授与されます。本学会ではこれまですでに計9回、14名の方々に奨励賞を授与しております。応募方法等の詳細は次々号にてお知らせいたします。

## § 編集後記

第87回日本組織培養学会会員通信をお届けいたします。年の瀬を迎え、何かと慌ただしいこの頃です。この一年を振り返って、阪神大震災やオーム事件など想像を絶する出来事の連続でしたが、皆さまの一年はいかがでしょう。私は、仙台に移動して一年目でありましたので研究室の整備に力を割かれましたが、それもほぼ完了し、今年蒔いた種が来年には芽を吹いてくれることを待望している毎日です。

ところで、会員通信では会員の皆さまからの寄稿文を掲載いたします。このように案内してからまだ一通も投稿はありませんが、ご希望の方がありましたら会員通信発行責任者まで郵便またはFAXで寄稿文をお寄せください。 (Y. S.)

平成7年6月から平成7年10月末まで  
 (\*印は発送先です)

## S 新入会員

氏名	現住所	所属機関・所在地
川島邦裕	〒761 高松市三条町 236カーサ松村104 ☎0878-66-6991	岡山大学医学部第二外科学教室 *〒700 岡山市鹿田町 2-5-1 ☎086-223-7151
宮島麻美子	*〒228 相模原市東林間 4-5-3 ☎0427-66-1132	麻布大学環境保健学部細胞生物学研究室 〒229 相模原市淵野辺 1-17-71 ☎0427-54-7111
伊藤真美子	〒 ☎	明治乳業(株)細胞工学センター *〒250 小田原市成田 540 ☎0465-37-9661
南本俊之	〒001 札幌市北区北18条西4丁目 フルール 18-202 ☎011-707-4672	北海道大学医学部形成外科学講座 *〒060 札幌市北区北15条西7丁目 ☎011-716-1161
百枝幹雄	〒162 新宿区納戸町 27-2-402 ☎03-5228-2109	東京大学医学部産科婦人科学教室 *〒113 文京区本郷 7-3-1 ☎03-3815-5411
西谷 巖	〒020 盛岡市下米内 2-3-14 ☎0196-62-9655	岩手医科大学産婦人科学教室 *〒020 盛岡市内丸 19-1 ☎0196-51-5111
田辺清男	〒157 世田谷区喜多見 4-28-18 ☎03-3416-9067	慶應義塾大学医学部産婦人科 *〒160 新宿区信濃町 35 ☎03-3353-1211
倉智博久	〒565 吹田市青山台 3-15-4 ☎06-835-5151	大阪大学医学部産婦人科 *〒565 吹田市山田丘 2-2 ☎06-879-3351
神崎秀陽	〒606 京都市左京区岩倉中町 576 ☎075-781-5913	関西医科大学産科学婦人科教室 *〒570 守口市文園町 10-15 ☎06-992-1001
寺川直樹	〒683 米子市内町 110-1 医学部宿舎 C1-1 ☎0859-22-9509	鳥取大学医学部産科婦人科学教室 *〒683 米子市西町 38-1 ☎0859-34-8126
辻 求	*〒569-11 高槻市南平台 5-44-21 ☎0726-95-8387	市立伊丹病院中央検査科 〒664 伊丹市昆陽池 1-100 ☎0727-77-3773
丸尾 猛	〒654 神戸市須磨区一ノ谷町 4-1-17-204 ☎078-734-0801	神戸大学医学部産科婦人科教室 *〒650 神戸市中央区楠町 7-5-1 ☎078-341-7451
山本 宝	〒606 京都市左京区吉田神楽岡町 33-2 ☎075-761-1256	京都府立医科大学産婦人科学教室 *〒602 京都市上京区河原町通広小路上ル 梶井町 465 ☎075-251-5560
藤本次良	〒502 岐阜市北島 7-11-21-205 ノースランド2D ☎058-231-4989	岐阜大学医学部産科婦人科 *〒500 岐阜市司町 40 ☎058-267-2831
児玉英也	〒010 秋田市下北手松崎字大巻 26-131 ☎0188-34-7347	秋田大学医学部産科婦人科 *〒010 秋田市本道 1-1-1 ☎0188-34-1111

加藤 聖子 〒874 別府市東荘園町 1-1-1-305  
 ☎0977-26-1552

秋山 正尊 〒768 観音寺作田町丙 267  
 ☎0875-25-4560

安永 直弘 〒879-71 大分県大野郡三重町大字  
 百枝 2023-1-3  
 ☎0974-22-7046

大竹 秀幸 〒861-11 熊本県菊池郡西合志町須屋  
 680-1  
 ☎096-344-3233

九州大学生体防護医学研究所生殖生理内  
 分泌学部門  
 \*〒874 別府市大字鶴見 4546  
 ☎0977-24-5301

(株)阪大微生物研究会観音寺研究所  
 \*〒768 観音寺八幡町 2-9-41  
 ☎0875-25-4171

川澄化学工業(株)佐伯工場生物試験課  
 \*〒876-01大分県南海部郡弥生町大字小田  
 1077  
 ☎0972-46-1212

熊本大学医学部産科婦人科  
 \*〒860 熊本市本荘 1-1-1  
 ☎096-373-5269

## § 退 会

氏 名	機 関 名
米研化学(株)販売促進室検査薬学術部	
大山 昭 夫	
菅 隆 良	(株)大阪大学微生物病研究会観音寺研究所
喜 納 勇	浜松医科大学
古 関 陸 好	獨協医科大学
板 倉 康 則	北海道医療大学歯学部口陸解剖学
佐 藤 茂 秋	神戸大学医学部衛生学講座
塩野義製薬(株)医薬研究本部	
志 水 義 房	信州大学医学部
富 永 直 樹	(株)資生堂研究所
野 村 弘 実	日本ポール(株)
細 見 次 郎	杏林製薬(株)
堀 口 貞 由	旭化成工業(株)
吉 田 豊	釧路市立病院